

応用音楽学科卒業生による発表

2026.1.13(火)10:45～

音楽館演奏ホール

～プログラム～

異なる楽器間における演奏技能の転移および共有・独立性に関する研究

学部課程の卒業研究では、初めて取り組む楽曲を演奏する際に、既にある程度演奏ができる複数の楽器(鍵盤楽器と管楽器)の間で学習転移が生じるかを調べた。その結果、異なる楽器間における演奏技能の転移および共有がなされていることが確認された。そこで現在の修士課程では、先行研究と卒業研究の実験結果を併せて、技能の学習転移や共有をより詳細に検討するために、各楽器の演奏時の身体の動きに注目している。今回は学部課程の卒業研究の紹介を中心に、その後の研究や大学院での学生生活などについて話す。

幾田日和

自閉症児 A 君との個別音楽療法の事例 ～共に音楽を楽しむことに焦点をあてて～

本研究は、発声の広がりや、興味・関心を増やしていくことを目的とした無言語の重度自閉症児の事例である。セッション開始当初は、クライアントの状態を主訴に近づける為に、クライアントがのるかどうか、できるかどうかの観察が中心であった。しかしながら、セッションでその行動が観察されても、模倣による応答やその後の行動の般化に繋がらないことに疑問を感じ、セッションの方向性を再検討することにした。セッションの中期は、セラピストとクライアントとの両者の信頼関係から生まれるやりとりや、音楽を共に楽しむことで見えてきたクライアントの変容があった。本研究はそのプロセスを、事例研究としてまとめた。

若江ひなた

背側前部帯状回はリズムカルな感覚運動同期中の single beat 操作における 文脈に関連した mental imagery を調整する

演奏や療法といった枠を超えて、音楽が人にどのように感じられ、どのような意味をもつのかを考えることをテーマに研究した。脳や神経メカニズムからの視点を手がかりに、心のイメージと音楽の関係について紹介する。そこから、「人間だからこそ成し得る音楽の本質」とは何かについて、一つの仮説を提示する。

植村真帆

～プロフィール～

幾田 日和

大阪府出身。2025年3月に武庫川女子大学音楽学部応用音楽学科を卒業後、現在は京都市立芸術大学音楽研究科修士課程音楽学専攻に在学中。音楽心理学・演奏科学の分野にて、中学校・高校・大学の約10年の吹奏楽経験から管楽器を中心に各楽器の演奏時の身体の動きに注目し、現在研究を計画している。

若江 ひなた

武庫川女子大学音楽学部声楽科音楽療法コース卒業。帝塚山大学大学院人文科学研究科臨床心理学専修修了。音楽療法室 にこにこ kids 主宰。音楽療法士、公認心理師。武庫川女子大学音楽学部教務助手。共著 高橋浩・山田史・天岸愛子・若江ひなた「きんぎょモデル」を用いた実践の組み立て 非認知能力を育てる発達支援の進め方 (2024),学苑社。

植村 真帆

武庫川女子大学音楽学部社会音楽・音楽療法コース卒業。神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域 脳機能・精神障害学分野博士前期課程修了。同大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域 健康情報科学分野博士後期課程修了。武庫川女子大学音楽学部教務助手。特定医療法人一輝会荻原記念病院リハビリテーション部所属。学会認定音楽療法士。認知症ケア専門士。神戸大学大学院保健学研究員。